



New!まちライブラリーの紹介

NO. 922 (京都府 京田辺市)

京田辺まちライブラリー

市南部のコミュニティ活動拠点である南部まちづくりセンター内にあるまちライブラリーです。木製の本棚やテーブルに囲まれた木が香るスペースで、併設のカフェを楽しみながら本を読むこともできます。

- Instagram: nmc_kyotanabe
- オーナー: 京田辺市立南部まちづくりセンター

NO. 923 (東京都 奥多摩町)

まちライブラリー@奥多摩リマーニ

東京都の西の端、奥多摩の山腹で、植物に関連する本を揃えたガーデンライブラリーです。庭のお好きなところで読書や苔観察はいかがですか？

戸外が気持ちのいい5~10月に不定期オープンしています。

- Twitter: gl_limani
- オーナー:

てのひら山野草 高瀬任子



NO. 926 (埼玉県 毛呂山町)

つるがしまごでもまちライブラリー毛呂山@ゆずりや

おもちゃと子供服のリユースショップにあるまちライブラリーです。子どもが楽しめる本や大人も童心に帰れる本などを揃えて、楽しくて懐かしいライブラリーを目指します。

- Web: <https://www.yuzuriya.com/>
- オーナー: ゆずりや

NO. 927 (京都府 南丹市)

奥山ライブラリー@芦生の森文庫

由良川の源流、「芦生原生林」の袂にある芦生集落に残るかつての小学校分校の一室がライブラリーです。本を通して生物の多様性をはじめ、芦生の自然と伝統文化を知り、訪れた人と人がつながる場を目指しています。

- オーナー: 岡優香

NO. 928 (広島県 広島市)

絵本とこどもの本の図書館 ぎおんぼう

アパートの1室を夫婦で改装し、近所の子どもたちが気軽に立ち寄れるように作りました。寝転べるマットや自習できるコーナーもあります。春~秋はベランダ、冬は和室のこたつで本を読むこともできます。

- Facebook: 絵本とこどもの本の図書館 ぎおんぼう
- オーナー: 中山貴司

NO. 929 (長野県 軽井沢町)

まちライブラリー@森のえほんべや Bookworm

英語の絵本に特化したまちライブラリーで、読み聞かせ会も開いています。個人宅のため予約制とし、ご予約いただいた方に住所をお伝えします。開館日は前月にInstagramでお知らせするのでご確認ください。

- Instagram: naokotsuzukihara
- オーナー: 原奈央子

NO. 930 (大阪府 東大阪市)

YORI house

ハンドドリップコーヒーや体調を整える食事を提供するカフェで、読書もお楽しみください。

- Web: <https://yori-house.com/>
- オーナー: 山崎頼子

NO. 932 (京都府 綾部市)

まちライブラリー@めぐり文庫

人やまち、地域の交流がめぐり交わることを願って自宅前の小屋に巣箱型のライブラリー「めぐり文庫」をオープンしました。地元根がした、誰もが自由に使える「みんなの小さな図書館」です。

- オーナー: 重本晋平



NO. 933 (愛知県 名古屋市)

まちライブラリー なかよし

子ども食堂「なかよしごはん」の中にあるライブラリーです。児童書やマンガなどを揃えています。本を通じて子ども達に世界を広げて欲しい。そして、子どもを応援する大人と繋がりたいと思っています。

- Facebook: 子ども食堂「なかよしごはん」
- オーナー: 子ども食堂なかよしごはん

NO. 934 (兵庫県 神戸市北区)

まちライブラリー@翠福社会(箕谷児童館)

神戸北町という閑静な住宅地にある箕谷児童館で“本”を介して人々の出会いや交流、絆が生まれることを願っています。カフェも利用しながら、心と体をリフレッシュする素敵な時間を一緒に作りましょう。

- Web: <https://midori-fukushikai.or.jp/minotani/>
- オーナー: 社会福祉法人翠福社会

NO. 935 (京都府 京都市山科区)

まちライブラリー@京都橋大学

今年5月に京都橋大学構内の施設であるアカデミックリンクスにオープンしました。学生の本との接点を増やし読書促進を目的としていますが、市民の方も閲覧や貸出の利用ができます(貸出には会員登録が必要)。

- Web: https://www.tachibana-u.ac.jp/library/machi_library/index.html
- オーナー: 京都橋大学まちライブラリー運営委員会

NO. 936 (東京都 八王子市)

まちの駅八王子CHITOSEYA まちライブラリー

多世代交流拠点のライブラリーです。八王子産の食材を使った「旬彩おむすび食堂」を併設しているので、食事やコーヒータイムの合間にご利用ください。環境や子育てなどに関するワークショップも開催中。

- オーナー: 特定非営利活動法人ワーカーズコープ

NO. 937 (沖縄県 石垣市)

まちライブラリー@Little Free Library花ラビット

沖縄本島よりさらに南、石垣島にある巣箱型のライブラリーです。「絵本図書室」をいつか開くことができたらいいなと思い、花屋さんの店先でLittle Free Libraryを始めました。お気軽に借りてみてくださいね。

- Instagram: ehon_toshoshitsu_olohuone
- オーナー: 宮良絵梨

NO. 938 (静岡県 三島市)

あひる図書館

和食店の2Fで運営する、一箱本棚オーナー制のライブラリーです。現在のオーナーは65人。各オーナーが自分の本棚に好きな本を置いているので図書館や書店とは違って、個性溢れる本のラインナップを楽しめます。

- Facebook: あひる図書館
- オーナー: 一般社団法人ママとね



NO. 939 (東京都 渋谷区)

まちライブラリー@コーププラザ

仕事に役立つ本や見聞を広めてくれる本、話題の本、おススメの本などを通じて生協の仲間の交流を深めます。将来的には組合員さんや地域の皆さんも集って憩える空間を目指します。

- Web: <https://jccu.coop/>
- オーナー: 日本生活協同組合連合会

NO. 940 (大阪府 大阪市阿倍野区)

みんなの図書室ほんむすび

シェア型図書室ときどき保健室です。一箱本棚オーナー制を採用し、店番はオーナーによる交代制で運営しています。医療福祉従事者が店番をする際は心身の悩み事相談も可能。本と人、人と人、人と町を結ぶ場所です。

- Facebook: みんなの図書室ほんむすび
- オーナー: Rehabilitation Design Lab

「まち」と「ライブラリー」 言霊が生み出す人々の夢



まちライブラリーに関する
情報はこちらから
<https://machi-library.org/>



まちライブラリーブックフェスタ・ジャパン
2022に関する情報はこちらから
<https://bookfesta.machi-library.org/>

この通信が皆様のお手元に届くころには、「まちライブラリーブックフェスタ・ジャパン2022」が行われているところもあるでしょう。各地で特色ある企画が進行しているようです。私も一部ですが、拝見して回りたいと思っています。

さて7月、8月と各地のまちライブラリーや本のある居場所をいくつか訪れてきました。みなさん本のある場を大切に活動されていて、なぜこれほどまでに本のある場所が求められているのかについて改めて考えてみる機会になりました。

兵庫県播磨市や豊岡市では、一箱オーナー制度の私設図書館をしている若い人たちと出会いました。京都府京丹後市の小さな集落では、野菜や日用品を扱うお店にまちライブラリーが併設されていました。どの場所でも本棚設置者だけでなく、その場を利用している人たちが熱い思いで活動に参画している様子が伺え、まちライブラリーが人のつながりを作っていることを実感できました。

各地を巡る中で特に感動したのは、山口県宇部市を訪れた時でした。まちの中心地に子ども

もの居場所をつくり、経済的に恵まれない子どもやその親たちが寄りあえる場所を提供している金子淳子さんとの出会いです。金子さんは、小児科医として子ども達を診るなかで、病だけを診るのではなく、家庭や生活環境からケアしなければならないと思い、子ども食堂を始めたそうです。困窮している家庭はもちろん、地域の方が誰でも来られる場所にして150名もの人が集う場所に発展しました。

しかしながら、食事の提供だけで果たしているのだろうか?と考えるようになったそうです。学習能力が身につけていないために就職適齢期に仕事の選択の幅が狭くなっている子どもがいることに気づいたのです。そこで次に、子ども達の居場所「キッズラップ『子ども第三の居場所』山口宇部拠点」を常設し、学びの場を作ろうと考えます。土地は自ら買い、建物は日本財団や地元の方々の協力を得て開設にこぎつけたそうです。施設の一部には、まちライブラリーが設置され、いつでも本を手にとれる環境となっています。時には、山口大学教授で哲学者の小川仁志さんが、子どもから大人まで自分のことを考える機会を与える哲学カフェを開いています。多様な大人と子ども達が、自由にふるまいながらもお互いに刺激を受けて成長する環境を提供しています。

もう一つご紹介したいのは、奈良の薬師寺近くの住宅街にある「本のある喫茶店 うのん」です。こちらは、お父様の残された民俗学や歴史の本が置かれていて、娘の宇野直子さんが運営されています。奈良らしい静かなたずまいの住宅街にある喫茶室兼まちライブラリーです。リビングでお茶やスイーツを楽しみながら本を閲覧できます。興味深い本がたくさんある中でひときり目を引いたのが、手書きで書かれた『大和乃気象歳時記』という200頁ほどのプリント本でした。几帳面な手書き文字や表やグラフなどで構成されています。中には、599年(推古7年)から1956年(昭和31年)まで100年ごとに災害記録が整理された表がありました。暴風雨、洪水、旱魃、地震、飢餓などもけっして年代によって一様でないことがわかり驚かされます。气象台にお勤めだったお父様が人生の集大成としてまとめた資料として、デジタル化して興味のある方に見ていただければとお勧めしてきました。

まちライブラリーには、不思議な魅力や社会的な意義が生まれてくることがあります。このような源泉がどこにあるのか、その一つが名前かもしれないと感じたきっかけがあります。テレビの構成作家をしている大学時代の同級生が

『中国史とつなげて学ぶ日本全史』(岡本隆司著、2021、東洋経済)からの気づきを紹介してくれたのです。日本は、中国から「漢字」を輸入しましたが、明治になり西洋への扉を先に開けた日本が、英語本を翻訳するにあたり「科学」「哲学」「経済」「革命」などの言葉を生み出し、逆にこれらの言葉を輸出したのです。今では当たり前前に使っている単語もその時代ごとに生み出されるということを改めて感じて「まちライブラリー」という言葉にも何か言霊があるように思いました。

「まち」と「ライブラリー」という単語を組み合わせると、多くの人が自らの活動に活用できるのではないかと感じてくれているのではないのでしょうか。「まち」に「市井に生きる人」という意味を込め、「ライブラリー」に本のある場所を想起させ、皆さんの背中を押しているのかもしれない。ふと、そんなことを考えながら、これからも多くのまちライブラリーに関係する人たちとの出会いに夢を膨らませています。どうぞこれからもお互い良い刺激を受け合える関係でいきましょう!

2022年8月

まちライブラリー提唱者 磯井純充
連絡先 mail : MSJ00657@nifty.com